

スパークファーム稲作ガイドライン

平成30年9月20日

《秋処理（年内中に行う作業）》

I. 秋処理に必要な塩、ボカシ、海水EM活性液の量

1. 塩の量

- | | |
|-------------|----------|
| ① 草の多かった水田 | 300 kg/反 |
| ② 草の少なかった水田 | 200 kg/反 |

2. ボカシII型の量

- | | |
|-----------|----------|
| ① 収量が8俵/反 | 150 kg/反 |
| ② 収量が6俵/反 | 300 kg/反 |

3. 海水EM活性液の量

- | | |
|---------|---------|
| 海水EM活性液 | 500 l/反 |
|---------|---------|

II. 秋処理の手順

1. 田圃の均平処理

田圃を起こす前に、土の高い所から低いところへ移動する。

2. 田圃の整流を行う。

3. 田圃の均平処理後に塩の散布を行う。

4. 塩散布のあと2週間後にボカシ、海水EM活性液を散布し耕耘作業を行う。この際、10cmを目安に耕耘作業を行う

5. 一度の耕耘作業で稲株や切藁を土の中に鋤きこめない場合は必要に応じて何度か耕耘作業を行う。

※ 海水EM活性液を散布する場合、一度に500 l/反の海水EM活性液が準備できない場合は100 lを散布して、残りの400 lは4回または数回に分け年内中に散布を行う。

《春処理（田植えまでに行う作業）》

I. 春処理に必要な塩、整流クン炭の量

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 塩の量 | 100～200 kg/反 |
| 2. 整流クン炭 | 200 l/反 |
| 3. 海水EM2次活性液 | 500 l/反 |

II. 春処理の手順

1. 2月から3月中旬までに整流くん炭を200ℓ／反散布し耕耘作業を行う。
2. 代掻き予定日より1週間前に荒代掻きを行う。
3. 田植え予定日より約9日間逆算して代掻き作業を行う。
4. 代掻き後、水を落とし翌日塩の散布を行う。 100～200kg／反
5. 塩を散布後、翌日に水を入れる。
6. 田植えは塩散布後約1週間後に行う。この間に海水EM活性液500ℓ／反を散布する。

※海水EM活性液を散布する場合、一度に海水EM活性液を500ℓ／反散布できない場合は100ℓを散布して、残りの400ℓは田植えまでに散布する。

《春処理までに行う作業》

I. 耕作放棄地からの稲作の場合

1. 圃場一面に雑草がある場合
 - ① MCにてトラクターが用意できる場合
 - ・トラクターにハンマーナイフ（雑草を細かくする機械）を装着し雑草を細かくする。（ハンマーナイフは農法部の貸し出し品。装着については農法部に相談）
 - ② MCにてトラクターが用意できない場合
 - ・草払い機で雑草を刈る。
 - ・刈り取った雑草は乾燥させ、整流灰化し活用する。
2. 雑草処理が終わった圃場（EMボカシII型と塩の散布）
 - ① なるべく早く、EMボカシII型150kg／反を散布し圃場の耕うん作業を行う。
 - ② 表面に稲株や雑草などの有機物が残らないように丁寧に行う。春処理が始まるまでに何度か耕うん作業を行う。
3. 畦の補修について
 - ① 畦の雑草を草払い機で綺麗に刈り取り、低いような所には土を入れて高さを整えたり、どうしても補修が無理なところは畦シート等を張り、畦からの水漏れが起こらないようにしておく。またモグラ等の対策としてEM活性液ペットボトルを畦に5メートル間隔で埋めておくとよい。

II. 昨年まで耕作していた稲作の場合

1. 荒起こしとEMボカシII型と塩の散布
 - ① なるべく早く、EMボカシII型150kg／反を散布し圃場の耕うん作業を行う。
 - ② 表面に稲株や雑草などの有機物が残らないように丁寧に行う。春処理が始まるまでに何度か耕うん作業を行う。

2. 畦の補修について

畦の雑草を草払い機で綺麗に刈り取り、低くいような所には土を入れて高さを整えたり、どうしても補修が無理なところは畦シート等を張り、畦からの水漏れが起こらないようにしておく。またモグラ等の対策としてEM 活性液ペットボトルを畦に5メートル間隔で埋めておくといよい。